



水芭蕉

東部市民センターだより

発行 青森市東部市民センター
〒030-0921 青森市原別 3-8-1
TEL 017-736-6255
FAX 017-736-6259

講座レポート

津軽・南部・下北のお盆行事

8/10

地域で違うお盆の光景

全国的にお盆の風習は、時期、迎え火・送り火のやり方、供物のしきたり等に大きな違いがあります。そこで津軽・南部・下北のお盆の行事の様子を学ぶ講座が、青森県立郷土館学芸員の増田公寧さんを講師に迎えて50代から70代の男女8人が参加して開催されました。

仏様の旅 一迎え火・送り火一

迎え火・送り火は、お盆の初めと終わりに先祖の霊を迎えて送るための伝統的な行事です。

津軽地方の迎え火は二十日盆までの1週間にわたり火を焚く(青森市内では焚かない)という説明がありました。また南部地方では、今では珍しくなりましたが「高灯ろう」や48本のろうそくの火を墓前や門口で灯す「四十八灯ろう」を立てていました。その様子を写真で示しながら解説がありました。

旅の乗り物 一野菜の舟・野菜の牛馬一

津軽・南部・下北地方とも、仏様の乗り物として最もよく使われるのが茄子の牛と胡瓜の馬です。

また、津軽地方西海岸のユニークな舟の乗り物(胡瓜を半分に切ってくり抜いたもの)や、深浦町関の船大工による本格的なつくりの磯舟の模型に、菓子や亡くなった人の形代を乗せて流す事例の紹介もありました。

仏様の滞在先 一盆棚(屋外・屋内)一

「盆棚」とは、お盆に来る霊魂を迎え、もてなす

施設や設備で、食物などの供物を並べる祭壇のことです。下北地方では、墓の前にビールケースを台にする新しいスタイルの盆棚が見られます。青森市では、盆棚を見かけることは少なく、墓に付属する供物台を代わりに使うようになっています。

また、津軽地方や下北地方の各家では仏壇の上方に横竿や縄を渡して、色とりどりの供物を吊るします。一見、仏壇の飾りに見えますが、実はルーツからいえばこれこそが古くからの「盆棚」の名残ということでした。

弁当と土産 一法界折一

お盆になると県内の各家では仏様用の弁当を作って墓や仏壇(盆棚)に供えます。本県のように調理済みの食物を墓前で食べる地域では、弁当スタイル(法界弁当、法界折)が都合よく、仏様に団子や饅頭など旅の食糧(弁当)を持たせるという考えも古くからあったということでした。

お盆が近づくとなにげなく準備していたことが、それぞれに意味があり、先祖代々から受け継がれてきた風習であるという講師の解説に、参加者は真剣に耳を傾けていました。



講師の解説に耳を傾ける参加者

市民センターから

センターだよりの愛称「水芭蕉」に決定！

東部市民センターだよりに愛称がなく、他のセンターだよりと足並みが揃っていませんでしたので、当市民センターでも愛称を名付けることになりました。

東部地区にはいろいろな名所・史跡、また東岳など青森市内では知られた有名な所がいっぱいあります。

その中で、特に原別地区は「水のまち」として知られており、約600年の歴史を持つ原別稻荷神社の裏手にある湿地には、約2000株の水芭蕉が群生し、地域の住民をはじめ、訪れる人の癒しの場となっています。ちなみに水芭蕉の花言葉は、「美しい思い出」と「変わらぬ美しさ」です。東部市民センターの直ぐ近くにありますので、愛着を込めて「水芭蕉」としました。

今後ともよろしくお願いいたします。



原別稻荷神社裏手に群生する水芭蕉

バルーンアートの魅力

バルーンアートの魅力は、1つの風船とポンプだけで動物や花などの形を素早く作り出し、その場にいて人に、笑顔と感動を届けることができることです。

小学生4人とシニアの女性が挑戦！

津軽の夏を彩る風物詩として親しまれる金魚ねぶたをバルーンで作る講座が、バルーンアーティストの宮本たえこさんを講師に迎え、男子小学生4人と50代から70代の女性5人が参加して開催されました。

天然ゴムからできているバルーン

「バルーンは、天然ゴムからできていて、自然にも優しく、土から生まれて土に帰る」とのお話があり、続いてバルーンの特性や使用上の注意点の説明と、講座で使用するラウンドバルーン（丸い風船）とツイストバルーン（細長い風船）の紹介がありました。

講師による作り方の披露

宮本さんは、作り方の手順をゆっくり説明しながら、大事なポイントを丁寧に解説しました。

- 1 ラウンドバルーンで体を作る。
- 2 赤と白のツイストバルーンでしっぽと口を作る。
- 3 ラウンドバルーンとツイストバルーンを合体させる。
- 4 マジックで鱗をかく。
- 5 鈴とヒレを付ける。
- 6 バルーンスティックを取り付けスタンドに立てて完成。



完成した参加者の
「バルーン金魚ねぶた」

「バルーン金魚ねぶた」作りに挑戦

参加者は2つの金魚ねぶたを作ります。

まず、ポンプでバルーンを膨らますのを楽しそうにやっていました。次に赤と白のツイストバルーンをつなげます。それぞれをねじりながら口としっぽを作るのに苦労していましたが、宮本さんの個別指導で無事にクリアしました。最後に体の部分のラウンドバルーンと口としっぽのツイストバルーンの合体もうまくできました。目や鱗の形、大きさは自由で、個性豊かな金魚ねぶたが完成しました。2つ目になると余裕も出てきて、手際よく取り組んでいます。

完成した「バルーン金魚ねぶた」に大満足

宮本さんが用意したバルーンは「プロ仕様」で割れにくいので、最初は恐る恐るバルーンをさわっていた参加者も、2つ目を作るときには手早くどんどんねじって、実に楽しそうに笑顔が溢れていました。

宮本さんが、参加者一人一人に目をかけ、適切な指導もあり、完成した「バルーン金魚ねぶた」は、個性にあふれていてどれも可愛い作品に仕上がりました。完成した「バルーン金魚ねぶた」を見つめ、満足そうな参加者の様子が印象的でした。



熱心に取り組む参加者



お勧め講座のご案内！ (10月・11月)

【地域力アップ講座】

☆楽しくバランスボール☆

開催日時：10月14、21、28日(水)

19:00～20:30

対象：一般 18歳～

人数：10人

受講料：無料

講師：バランスボール

インストラクター 館山香織

申込方法：広報あおもり9月号掲載



☆簡単な運動で元気にロコモ予防体操☆

開催日時：11月4日(水)

10:00～11:30

対象：一般 60歳～

人数：10人

受講料：無料

講師：青森市高齢者支援課

申込方法：広報あおもり10月号掲載



編集後記

市民センターでは、市民の皆様の興味・関心を引き付ける様々な講座を開催し、サークル活動を行っています。学習活動に取り組む姿は、明るく元気で楽しさに溢れています。今後もそのような生涯学習の取組を紹介する紙面作りを行い、市民の皆様の学習活動を支援してまいります。

〈取材・編集〉

青森市中央市民センター1F

青森市生涯学習推進員室

TEL 017-734-0164 (内線 36)

東部市民センター担当：須藤、横内